

BrunchMade DX 戦略 2026-2029

株式会社 BrunchMade

対象期間: 2026 年～2029 年

1. 経営ビジョンと DX の方向性

株式会社 BrunchMade は、

「わたしたちのビジネスで一つでも多くの感動を」

をミッションに掲げ、モノづくりを通して感動を届ける事業を展開しています。

私たちは、AI やデジタル技術の急速な進化によって、企業の働き方、システム開発、人材に求められる能力、そして企業が提供するサービスそのものが大きく変化していくと考えています。

これまで人が時間をかけて行ってきた情報収集、文書作成、タスク管理、データ整理、システム開発等についても、AI・クラウド・データ等を活用することで効率化・高度化できる領域が拡大しています。

一方で、私たちは AI を導入することそのものを DX とは考えていません。

AI が担うべき役割と人が担うべき役割を整理し、定型的な業務やシステム化できる業務については AI・デジタル技術を積極的に活用することで、人が設計、判断、創造、コミュニケーション、事業推進等の仕事により集中できる環境をつくることを目指します。

そのためには、AI を利用する能力だけではなく、AI が生成した情報を判断する力、システムやサービスを設計する力、顧客の事業を理解する力、そしてセキュリティやプライバシーに関する知識が、これまで以上に重要になると考えています。

BrunchMade は、AI に依存する会社ではなく、人と AI がそれぞれの強みを活かして共存する会社への変革を進めます。

2. 2029 年に目指すビジネスモデル

BrunchMade は現在、SES を事業基盤としながら、受託開発、DX 支援、自社デジタルサービス等へ事業領域を拡大しています。

2029 年に向けて、株式会社 BrunchMade を **AI・デジタル技術を活用したプロダクト及びサービスを生み出す事業会社** へ発展させることを目指します。

自社サービス「Scolor」をはじめ、AI・デジタル技術を活用したプロダクトを育成し、SES・受託だけに依存しない複数の事業基盤を構築します。

一方、SES・IT 人材事業については、将来的に株式会社 BrunchMart として事業を分離し、労働者派遣事業の許可取得も視野に入れ、それぞれの事業が専門性を高められる体制を目指します。

将来的には、

BrunchMade: AI・DX・プロダクト・モノづくりを担う事業会社

BrunchMart: SES・派遣・IT 人材育成を担う事業会社

として、それぞれの専門性を高めながら、技術、人材、知識、顧客課題等をグループ内で循環させる事業モデルを目指します。

また、SES 事業においては、エンジニアの成長環境を案件ごとの偶然性に依存させないため、SIer やエンド企業等との直接的な取引機会を増やし、準委任、請負、Lab 型開発等を含め、顧客課題に応じた支援ができる体制を構築します。

2029 年には、新卒採用者を含め **技術職約 20 名** を一つの目安とし、若手人材を継続的に採用・育成できる環境を構築します。

3. DX Vision 2029

BrunchMade は 2029 年に向けて、

AI・データ・クラウドを経営、営業、開発、情報管理等へ組み込み、人と AI が協働することで高い生産性と付加価値を生み出せる組織

を目指します。

そして、自社で DX を実践することで蓄積した知識・経験を、顧客企業や地域社会へ還元します。

私たちが目指す変革は、大きく 3 つです。

自社を変える。

顧客の変革を支援する。

事業そのものを変える。

この 3 つの変革を、デジタル人材と安全な IT・セキュリティ基盤によって支えます。

4. DX 戦略 — 3 つの変革

4-1. 自社変革

AI と人が共存する会社へ

BrunchMade 自身が AI・デジタル技術を積極的に実践することを、DX 戦略の起点とします。

現在、Google Workspace、Notion、Slack、生成 AI、クラウドサービス等を活用し、情報共有、タスク管理、文章作成、開発等の効率化・高度化を進めています。

今後は、これらを単独のツールとして利用するだけでなく、必要に応じて自社開発したシステムと既存サービスを組み合わせ、BrunchMade の業務に適した独自のデジタル業務基盤を構築します。

労務、法務、財務、営業、開発、情報管理等についても業務を継続的に見直し、既存サービスを活用する領域と、自社でシステム化・AI 活用する領域を整理します。

目指すのは、

「人が情報を探し、定型業務を処理する組織」から、「AI・システムが定型業務を担い、人が判断・設計・創造・事業推進に集中する組織」への変革です。

Baidor による AI との協働

この考え方を実現する取り組みの一つとして、Baidor の開発・改善を進めます。

Baidor は、一人ひとりの役割、業務、タスク等に合わせて、情報提供、タスク管理、通知、リマインド等を支援する AI アシスタントです。

毎日・毎月繰り返される業務や、人が都度考える必要のない定型業務については、可能な限り AI・システムへ移行します。

一方で、AI にすべてを任せるのではなく、人が最終的な判断・設計・責任を担うことを前提とします。

将来的には、社員一人ひとりに業務や役割を理解した AI パートナーが存在し、人と AI が二人三脚で仕事を進める環境を目指します。

4-2. 顧客変革

顧客企業の「外部 IT・DX 部門」へ

BrunchMade は、システムを導入・開発することだけを DX とは考えていません。

顧客企業の業務や事業を理解し、AI、システム、データ、人材等を組み合わせること
で、業務や事業そのものを改善・変革することを顧客 DX 支援の目的とします。

これまで培ってきたシステム開発、業務改善、IT 人材支援等の経験に、自社で実践する AI・DX の知見を組み合わせ、

業務理解・課題整理→ DX・IT 方針策定→ IT 環境整備→ システム開発→ AI・データ活用→ 運用・継続改善

までを支援できる体制を構築します。

ONIGIRI による継続的 DX 支援

ONIGIRI では、単発の IT 研修やツール導入にとどまらず、顧客企業の中に入り込み、業務、情報、システム、IT リテラシー等を継続的に改善することを目指します。

特に、自社だけで専門的な IT 部門や IT 責任者を持つことが難しい企業に対し、BrunchMade が**「外部 IT 部門・外部 IT 責任者」**として伴走します。

BrunchMade 自身が社内 DX で実践した成功・失敗・知識・経験を顧客へ還元することで、単なる IT ツール導入ではなく、企業内部から IT・DX 活用力を高める支援を目指します。

4-3. 事業変革

AI を活用したプロダクト企業へ

BrunchMade は、SES・受託開発によって培った技術・人材・顧客課題への理解を活かし、自らデジタルプロダクトを生み出す企業へ変革します。

その中心となる取り組みの一つが、自社サービス「Scolor」です。

Scolor — 人材情報 DX

Scolor では、スキルシート等の人材情報の作成・共有をデジタル化し、AI を活用することで、人材情報の作成・整理・活用を効率化します。

今後はスキルシートだけではなく、履歴書、職務経歴書等へ対象を拡大し、様々な人材情報を AI によって変換・整理・分析できるサービスへの発展を目指します。

IT 業界だけに限定せず、建築・建設、人材、派遣等、人材情報を多く扱う業界についても活用可能性を検証し、必要に応じて制度・助成等も踏まえた導入支援を検討します。

2029 年までに全国の企業への導入を進め、事業として継続的に成長できる基盤を構築します。

また、AI・デジタル技術を活用した新しいサービスの研究・開発を継続します。

ただし、サービス数を増やすこと自体を目的とはしません。

既存プロダクト、SES、受託事業等の安定を優先し、一つのプロダクトについて一定の収益化・事業基盤を構築した上で、次の事業・サービスへの投資を行うことを基本方針とします。

5. DX を支えるデジタル人材・組織

BrunchMade が目指すのは、単に「AI を使える人材」を増やすことではありません。

AI に依存するのではなく、AI と共存しながら、技術・設計・事業推進・セキュリティを理解し、自ら価値を生み出せる人材を育成することを人材戦略の中心とします。

AI によって開発や業務の速度が向上しても、設計、品質、セキュリティ、顧客課題への理解が不足すれば、企業として提供できる価値は高まりません。

そのため、AI、クラウド、AWS、情報セキュリティ、プライバシー等に関する教育・資格取得を推進します。

全社研修を原則として四半期に 1 回実施するとともに、日常的に技術情報、成功・失敗事例、セキュリティ上の懸念等を共有できる環境を構築します。

また、新卒・若手エンジニアについても、AI を利用して開発するだけでなく、技術の基礎、設計、品質、セキュリティ、顧客理解を実務の中で学べる育成環境を整備します。

2029 年には、新卒採用者を含め技術職約 20 名を一つの目安とし、複数の専門領域・役割を持ったチームを形成できる組織を目指します。

6. DX 推進体制

DX 戦略については、代表取締役 CEO 及び CTO を中心として推進します。

代表取締役 CEO

経営ビジョン、DX 戦略、事業戦略、投資判断、成果指標等を統括します。

CTO

技術戦略、AI 活用、クラウド、システム開発、自社プロダクト及び技術基盤等を統括します。

全社に関係する DX 施策については全社会等を通じて共有し、DX に関する施策・技術・課題については、隔週または必要に応じて DX 会議を開催します。

また、メンバーが知識・経験を蓄積し、特定領域への専門性や関心を高めた場合には、そのメンバーが責任ある役割・ポジションを担える体制を構築します。

将来的には、情報セキュリティ、プライバシー、クラウド、AI、IT 人材事業等について、代表者・CTO だけに知識や責任が集中しない組織を目指します。

DX 認定でも、戦略推進に必要な組織・人材の育成・確保に加えて、必要に応じた外部組織との協業を含む体制が求められているため、この推進体制を公開戦略として明示します。

dx-nintei-guidance.pdf

7. IT システム・セキュリティ基盤

AI・デジタル技術を事業の中心へ組み込むほど、情報セキュリティ、プライバシー保護、適切なデータ管理の重要性は高まります。

BrunchMade では、Google Workspace、Notion 等のクラウドサービスを活用しながら、情報共有、アカウント、アクセス権限等の管理を進めています。

また、SECURITY ACTION★★を自己宣言し、情報セキュリティに関する継続的な改善に取り組んでいます。

今後は、以下の領域を中心に継続的な強化を進めます。

- アカウント・アクセス権限管理
- 貸与端末・デバイス管理
- オフィス・物理セキュリティ
- 社内・顧客データの管理
- AI 利用時の情報管理
- クラウド環境のセキュリティ
- 従業員へのセキュリティ教育
- インシデント・リスク情報の共有
- バックアップ・事業継続を考慮した情報管理

DX 認定後は、事業規模や顧客要求等を踏まえ、ISMS 認証取得を視野に入れます。

また、個人情報を取り扱う事業の拡大に応じて、プライバシーマーク等についても必要性を検討します。

認証・資格を取得すること自体を目的とはせず、顧客から安心して情報・システム・事業を任せてもらえるデジタル基盤を構築することを目的とします。

なお、中小企業の DX 認定では SECURITY ACTION 二つ星の自己宣言によりサイバーセキュリティに関する設問要件を満たす方法が公式に認められています。

[dx-nintei-guidance.pdf](#)

8. DX 成果指標 (KPI)

DX 戦略を継続的に推進するため、以下の成果・進捗指標を設定します。

領域	指標	2029 年に目指す状態
社内 DX	AI 活用可能な対象業務における AI 活用	原則 100%
開発 DX	AI 活用可能な開発案件における AI 活用	原則 100%
情報基盤	主要な社内情報・DB の一元管理	Notion 等を中心に一元管理
デジタル人材	技術職人数	新卒を含め約 20 名
人材育成	DX・AI・セキュリティ等の全社研修	四半期 1 回以上
顧客 DX	継続型 DX 支援	ONIGIRI 等による支援拡大
プロダクト	自社 AI・デジタルサービス	継続的な事業化・収益基盤構築
セキュリティ	情報セキュリティ体制	SECURITY ACTION★★を基盤に継続強化
DX 経営	DX 戦略の進捗確認	半年に 1 回以上

自社サービスの導入社数等については、市場検証・事業計画を踏まえて別途事業 KPI を設定します。

DX 認定でも、戦略の達成状況を測る指標を公表することが求められているため、本指標を DX 戦略の進捗管理に活用します。

dx-nintei-guidance.pdf

9. DX 戦略の評価・見直し

本 DX 戦略の対象期間である 2026 年から 2029 年までは、原則半年に 1 回、代表取締役 CEO 及び CTO を中心として進捗状況を確認します。

KPI の進捗だけでなく、社内 DX・AI 活用状況、顧客 DX の実績、自社プロダクトの進捗、デジタル人材の育成状況、AI・クラウド等の技術環境の変化、情報セキュリティ上の課題等を総合的に確認します。

また、DX 推進指標等を活用した自己診断によって自社の課題を把握し、その結果を DX 戦略・施策の見直しへ反映します。

重要な戦略変更については取締役会で審議します。

2030 年以降については、本戦略期間における成果及び課題を踏まえ、半年または年 1 回等、適切な見直し頻度を取締役会で決定します。

10. 代表メッセージ

AI と人が共存し、個性が最大限発揮される会社へ

私たちは、モノづくりを通して感動を届ける事業を展開しています。

その上で、私たちはテクノロジーには人の可能性を広げる力があると信じています。

私たちが目指しているのは、AI への依存ではありません。

目指すのは、AI との共存です。

AI が担うべき役割と、人が担うべき役割をそれぞれが果たし、互いの強みを活かすこと。それが、私たちの考える AI との共存です。

そのためには、AI そのものを理解すると同時に、技術やセキュリティへの理解を深め、AI を正しく使う力を身につけることが必要だと考えています。

BrunchMade は、AI やテクノロジーを活用することによって、人がより人らしい仕事に集中し、それぞれが持つ個性を最大限発揮できる環境をつくります。

そして、

「個性を 100%発揮し、その個性を誰かのために 100%反映する」

そんな創造集団であり続けます。

私たちが創るビジネスを通じて、一つでも多くの感動を届けていく。

それが、BrunchMade が DX を推進する理由です。

2026 年 9 月 17 日

株式会社 BrunchMade

代表取締役 CEO 中谷 圭吾